

2020年8月1日開院

“Yuuai Medical Center”

友愛医療センター 心臓血管外科だより

Vol.27
2023年
6月

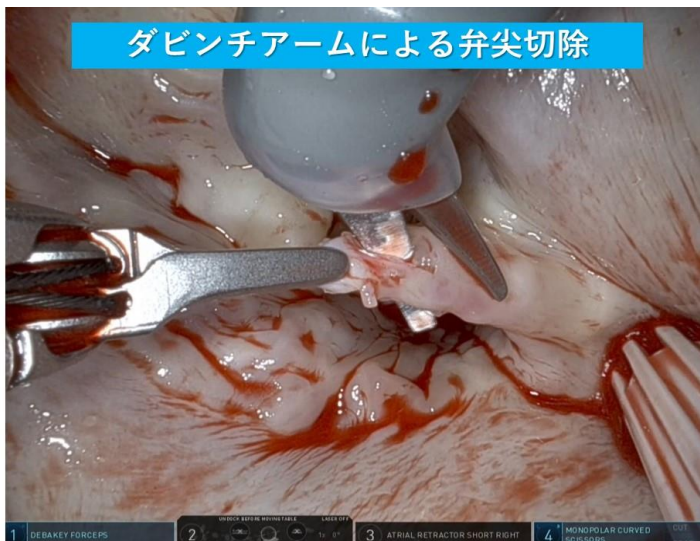
沖縄県初のロボット支援下心臓手術を行いました

当院では2023年5月、手術支援ロボット（ダビンチ）を使用した心臓手術の第1例目を行いました。重症僧帽弁閉鎖不全症に対する形成術を行い、重症逆流は消失し術後7日目の自宅退院となりました。これは**沖縄県第1例目のロボット心臓手術**となりました。

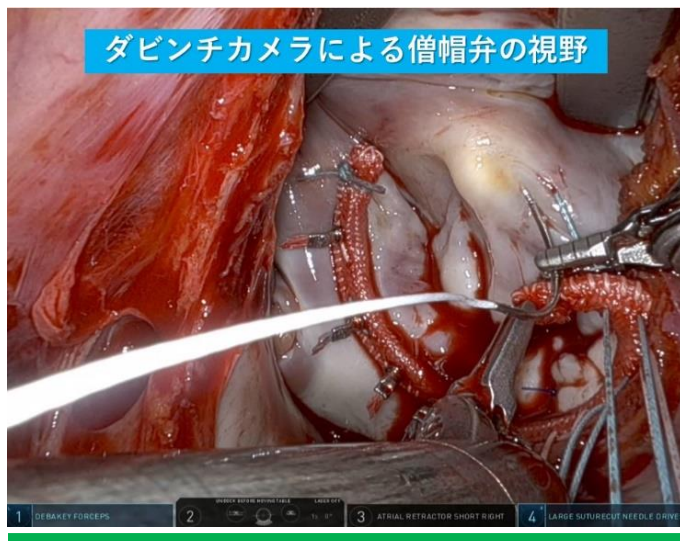
実際に執刀した印象として、病変部の把握がしやすく治療方針をたてやすい、術後の創痛が従来の低侵襲心臓外科手術治療（MICS）に比べて圧倒的に少ない、ことを体感しました。ダビンチカメラは心臓内を自在に画像把握可能であり、僧帽弁全体の把握をスムーズに行うことが可能でありました。さらには3本のダビンチアームが人間の手の可動域を超えた動きで病変部の切除や運針を可能とします。これは形成術の精度を上げることにもつながります。それらを小さな傷で行いますので創痛はほぼなく、治療経過および結果は非常に良好でありました。**早期社会復帰（仕事復帰）を可能とする術式**であることを再認識した次第です。



ダビンチアームによる弁尖切除



ダビンチカメラによる僧帽弁の視野



改めて現在のロボット使用による心臓手術の対象疾患と利点をあげます。

<現在のロボット心臓手術における対象疾患>

- * 心臓弁膜症
- * 虚血性心疾患
- * 心臓腫瘍
- * 心房中隔欠損症

<ロボット心臓手術の利点>

高性能カメラにて病態把握がより深まるため手術の完成度が上がる
創部が小さいため痛みが少ない

現在の保険適応は心臓弁膜症における「弁形成術」のみとなっておりますが、来年以降、適応手術は増加する方向で伝えきいております。当科では安全第一でこの治療を開始し、その恩恵を多くの患者さんに還元していきたいと考えております。

ロボット心臓手術は、中等症から重症の心臓弁膜症患者さんが対象となります。症状の有無にかかわらず将来的な生命予後を考えると無症状の時点で治療を開始すべきとも考えられております。対象となりそうな患者さまがおられましたらいつでもご紹介ください。治療時期を含めてベストの治療法をご提案させていただきます。今後とも当院当科をどうぞよろしく御願いたします。



友愛医療センター 心臓血管



執筆：
心臓血管外科 部長 山内 昭彦



山内昭彦ブログ「日本最南端の心臓外科医日記」より
「MICS-CABGによる回旋枝領域へのバイパス」



ホームページ



心臓血管外科の
Facebookが
新しくなりました！

